

【和歌山県】土地改良を契機とした農村地域の振興事例集

市町村	地区名等	タイトル	頁	発行月	Vol.
御坊市	名田	「スターチス」の産地形成と低コスト・高品質化の取組の推進	1	H28.06	1
みなべ町	南紀用水	梅のPRや販売を通して「農業女子」を楽しむ	2	H29.08	3
御坊市	名田	高収益作物の導入により安定した農業収入を実現し、高齢化に歯止め！	3	R元.12	6
田辺市	日向	樹園地の整備で働きやすい農地の形成と担い手の育成	4	R3.03	7
御坊市	名田	戦略的な更新整備により農業用水の安定供給を確保し高収益農業を確立	5	R4.03	8
和歌山市ほか	和歌山平野	農業用排水施設の整備により湛水被害を軽減	6	R4.03	8
有田郡有田川町	有田川	基盤整備を契機とした観光ぶどう園「有田巨峰村」の取組	7	R5.03	9
田辺市、みなべ町	南紀用水	基盤整備を契機としたうめ振興と再生可能エネルギーの取組	8	R6.03	10
橋本市	大池(学文路)	水位監視とソフト対策の連携によるため池の防災・減殺対策	9	R7.03	11

「スターチス」の産地形成と低コスト・高品質化の取組の推進 【和歌山県御坊市】

ごぼうし

体制づくり

栽培作物
・方法

加工・出荷

販売

【工夫のポイント】

- 生産者自らが主体となり行った**消費者ニーズの研究**や温暖な**自然環境を踏まえ、花きの施設栽培へ転換**。
- 生産量日本一を誇るスターチスは、**市場出荷量の少ない時期に出荷**され経営の安定に寄与。
- **オリジナル品種の育成**による種苗費の削減や、生産現場での**循環送風機の導入**などの取組により、**低コスト・高品質化を推進**。

かんがい施設の整備を通じた用水の安定供給による花きの施設栽培の実現

用水の安定供給や区画整理により大幅に労力の軽減が図られ、品質が高く収量の安定した花きの施設栽培が実現。



丘陵地に広がるビニールハウス



配水槽

基盤整備 (S37年～H20年)

【整備前】

標高5mから50mに至る傾斜地に位置し、**狭小かつ不整形な階段畑のため多大な労力を要していた**。食生活の変化等に伴う需要の変化により、新たな作物への転換に向け、用水の確保が必要となっていた。



整備前のほ場



整備前の階段畑

【取組地域の概要】

- 位置
ごぼうし
和歌山県御坊市(特定農山村等)

和歌山県

なだ
名田地区



- 傾斜
・標高5m～50mに至る傾斜地
- 主要作物
・花き(スターチスなど)

○主な支援施策

- ・県営・団体営畑地かんがい事業(S37～S41)
- ・県営かんがい排水事業(S61～H2、H7～H16)
- ・県営畑地帯総合整備事業(H9～H20)
- ・強い農業づくり交付金(H20)

生産現場

気候を活かした出荷等による需要の確保



クーラー育苗施設



スターチス

- 温暖な自然環境を活かした花きの施設栽培を行っており、**スターチスは市場出荷量の少ない11月～5月を狙って出荷**。**冬期の全国シェアにおいては、9割を占めている**。

- クーラー育苗施設の整備により、スターチスのオリジナル品種の育苗を行い、低価格で生産者に提供。

加工・流通

集出荷の一元化による規格の統一

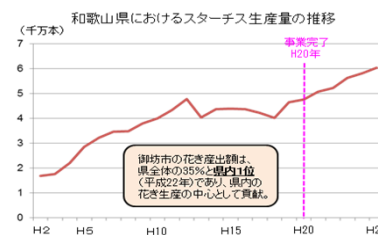


大型集出荷施設

- 大型集出荷施設を整備し、集出荷を一元化することで、効率化によるコスト縮減と**規格統一による品質向上**を図る。

高収益作物の導入やオリジナル品種の開発等による販売額の確保

- 県オリジナル品種の開発等も通じて、日本一のスターチス生産量を誇っている。
(平成25年時点)



【スターチスを中心とした農業経営による農業所得】

花き生産に取り組むモデル経営体の現状(H25)

- 【営農規模】 100a (内、施設100a)
- 【作目】 花き(スターチス100a) + 野菜(トマト10a、刈り10a、アスパラ10a)
- 【販売額】 3,657万円 【所得】 1,385万円

花きを中心とした生産を通じた高い所得の確保

注)「販売額」は、経営統計上の「農業粗収益」を指す。

【出典: 和歌山県によるモデル経営体への聞き取り調査】

地域概要

和歌山県みなべ町 (特定農山村等)

和歌山県

なんきようすい
南紀用水地区

【主要作物】
梅

【主な基盤整備】

- ・国営かんがい排水事業 (S48~H7)
- ・県営かんがい排水事業 (H1~H14)

用水の安定供給と防除作業の軽減

【整備前】

雨や沢水に頼らざるをえなかったため、干ばつによる収量減や品質低下の被害が発生していた。また、急傾斜地における手散布の防除作業は重労働だった。



基盤整備

(S48年~H14年)

【整備後】

- 水源を確保するとともに、スプリンクラーを整備し、安定的な農業用水の供給が可能となるとともに、防除作業の負担を軽減。安定した収量や品質の梅を生産。



女性たちの声



M. Hさん

結婚を期に、それまでの仕事をやめて農業を始める。夫婦二人で梅の生産をする傍ら、梅のPRや販売に取り組んでいる。

VOICE

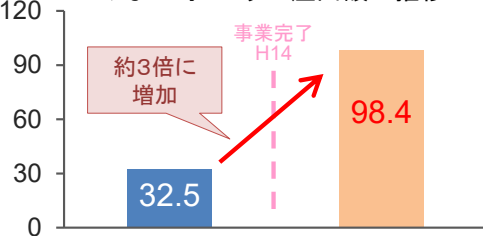
スプリンクラーなんて最初は
いらなかった！

- 防除作業は2週間に1度。2人で朝から日暮れまでやっても、2.4haの園地で3~4日は必要でした。雨が降ればやり直し、急傾斜地での手散布は足下が滑るので危険でした。
- 夏場の水やりは、麓で水を汲んで軽トラで運ばなくてはならず、水がなくなる度に麓まで戻る必要があったため、2人がかりの仕事でした。
- スプリンクラーのおかげで、1haの防除作業でも、夫1人が1時間でできるようになり、私は梅のPRや販売に出かけられます。
- これなら梅農家を続けていけるし、子どもに後を継いでもらう夢も見られます。

収益性の向上と全国に広がる女性生産者の交流

- 防除と散水に必要な労働コストが大きく削減できたことで収益性が向上。また、みなべ町のうめの産出額は事業後に約3倍に増加。
- 日本各地からウメ生産者の女性リーダーが集う「全国ウメ生産者女性サミット」を2017年2月にみなべ町で開催。

(億円) みなべ町の うめ産出額の推移



全国ウメ生産者女性サミットでの挨拶の様子

【出典：和歌山県調べ】 S60 H16
注) 和歌山県の算出額に、みなべ町の出荷量の割合(約4.5割)を乗じた推計値

私たちのチャレンジ

Action 1



「受領梅遊びグループ」のみなさん

- 地元の女性でつくる「受領梅遊びグループ」を結成し、「奥みなべ梅林受領の里」を開園し、観光客を受入れ。

Action 2



東京(青山)のファーマーズマーケットでの販売

- 梅の漬け方やジュースの作り方などの説明をしながら梅のPRをするため全国を回っています。娘にも手伝ってもらいながら「農業女子」の楽しみを伝えています。

地元女性との活動や全国への販売・ファンの開拓に大忙し

高収益作物の導入により安定した農業収入を実現し、高齢化に歯止め！【和歌山県御坊市】

ごぼうし

国土強靱化

一億総活躍

地方創生

【工夫のポイント】

- 生産者自らが主体となり行った消費者ニーズの研究や温暖な自然環境を踏まえ、花きの施設栽培へ転換。
- 生産量日本一を誇るスターチスは、市場出荷量の少ない時期に出荷され経営の安定に寄与。
- 安定したかんがい用水を送水するため、管理者で直営施工できるよう技術力の維持向上体制を整備。

【取組地域の概要】

- 位置 ごぼうし
和歌山県御坊市(特定農山漁村)



- 傾斜
・標高5m～50mに至る傾斜地
- 主要作物
・花き(スターチスなど)
- 主な支援施策
・県営・団体営畑地かんがい事業(S37～S41)
・県営かんがい排水事業(S61～H2、H7～H16)
・県営畑地帯総合整備事業(H9～H20)
・強い農業づくり交付金(H20)

基盤

かんがい施設の整備を通じた用水の安定供給による花きの施設栽培の実現

用水の安定供給や区画整理により、大幅に労力の軽減が図られ、品質が高く収量の安定した花きの施設栽培が実現。



基盤整備

(S37年～H20年)

【整備前】

標高5mから50mに至る傾斜地に位置し、狭小かつ不整形な階段畑のため多大な労力を要していた。



生産現場

気候を活かした出荷等による需要の確保



- 温暖な自然環境を活かした花きの施設栽培を行っており、スターチスは市場出荷量の少ない11月～5月を狙って出荷。冬期の全国シェアにおいては、9割を占めている。

地域の取組

直営施工による対応



- 簡易な漏水修理を直営施工できるよう、技術力の維持向上体制を整備。

加工・流通

集出荷の一元化による規格の統一



- 大型集出荷施設を整備し、集出荷を一元化することで、効率化によるコスト削減と規格統一による品質向上を図る。

安定した農業収入で高齢化に歯止め

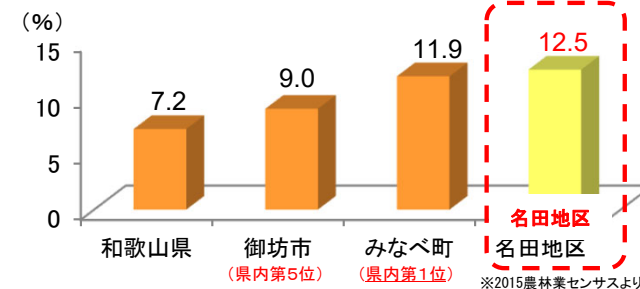
- 高収益作物の花き等を導入し、安定した農業収入を実現。

<農業粗収益の推移>



- 地区内農家の子供(14歳以下)の割合は、県内でトップクラスを誇る。

<農家年齢構成(14歳以下の子供の割合)>



【工夫のポイント】

- ほ場区画を整形・拡大し、一定勾配の緩傾斜地に整備することで、**作業の効率化・安全性の確保**と担い手の**安定した農業経営**を実現。
- 更なる作業の効率化と収穫量の安定を図るため、**かんがい用水の確保とかん水・防除作業の省力化・効率化**による担い手の**経営基盤の強化**を推進。

【取組地域の概要】

- 位置
和歌山県田辺市(特農等)

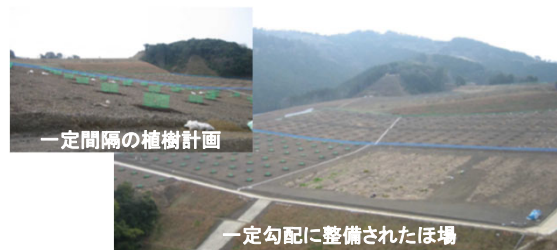


- 主要作物
・うめ(南高梅)
- 主な支援施策
・県営中山間地域総合整備事業など (H18~H25)
・多面的機能支払交付金 (H25~)

基盤

最適な造成勾配による営農作業の効率化

ほ場を一定勾配の緩傾斜地に整備することで、落下した完熟梅が収穫用のネットを転がるようにするなど、**安全で働きやすい農地**を実現。



基盤整備

(H18年~H25年)

【整備前】

急峻な傾斜畑のため、重労働かつ危険を伴い、農作業の省力化や収益性の向上に支障となっていた。



生産現場

ほ場内の運搬車両通行による労働力軽減

- 傾斜畑の樹園地では梅をモノレールで運搬していたが、基盤整備により**軽トラック等での運搬が可能**となり、農作業の労力が軽減。



加工・流通

一次加工品による出荷時期の調整

- 青梅(青果)を白干梅(一次加工品)に加工することで、**出荷時期を調整**し、供給過多による価格低下を防止。
※六月頃に収穫して塩漬けにした梅を梅雨明け後に三日ほど日干しすること



地域の取組

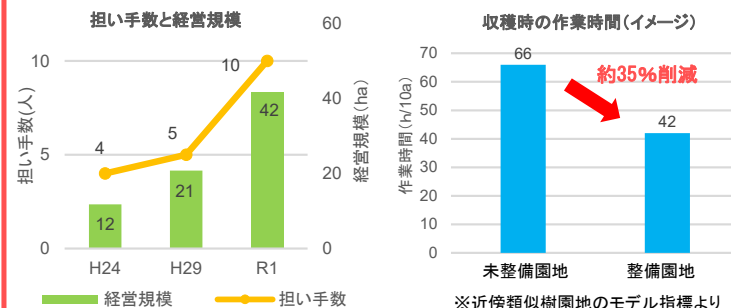
農地調整体制の確立

- 梅農家を中心に農地の流動化、後継者の育成や地域の活性化を図るため、**定期的な意見交換会**や**共同作業**を実施。



基盤整備を契機とした担い手の育成

- 急峻な傾斜畑等が解消され、安全で効率的な営農環境が整備されたことなどにより、**担い手の数は2.5倍**、**経営規模は3.5倍に増加**。
- また、軽トラック等での運搬が可能となることで、**収穫時の作業時間を約35%削減**。



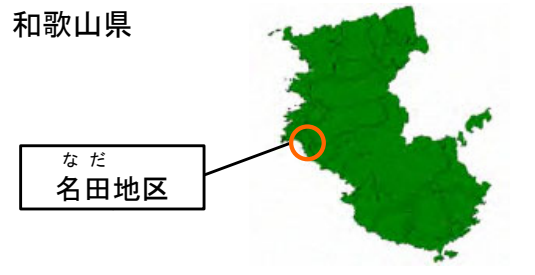
- 更なる高品質化、収穫量の安定を目指し、用水の安定供給と散布ブロック切替の自動化を行い、**かん水・防除作業の省力化・効率化による担い手の経営基盤の強化**を推進。

【対策のポイント】

- パイプラインの戦略的な更新により、生産性の高い農業経営を維持・拡大。
- 仮に突発的な漏水が生じた場合においても、農業者自らが応急的な補修を行える体制を整備。
- 将来にわたり用水への不安が解消され、水耕栽培の導入による肥培管理の省力化への取組みが拡大。

【取組地域の概要】

○位置 和歌山県御坊市



○事業名

水利施設整備事業 (H26～R2)

○主要作物

花き(スターチス、かすみそう)、
さやえんどう、すいか

○受益面積 287.1ha(畑)

○主要工事 送水管工(更新) L=5,306m

基盤

かんがい施設の戦略的な更新によって用水の安定供給を図り、生産性の高い農業を確保



パイプラインの漏水



老朽化した水管橋

基盤
整備

(H26～R2)



パイプラインの敷設替(更新)



水管橋(更新)

地域の取組

突発的な漏水が生じた場合の
応急体制を整備

- 漏水が生じた場合においても、簡易な漏水修理を直営施工できるよう技術力維持のための研修を行うとともに、体制を整備。



肥培管理の省力化の取組み

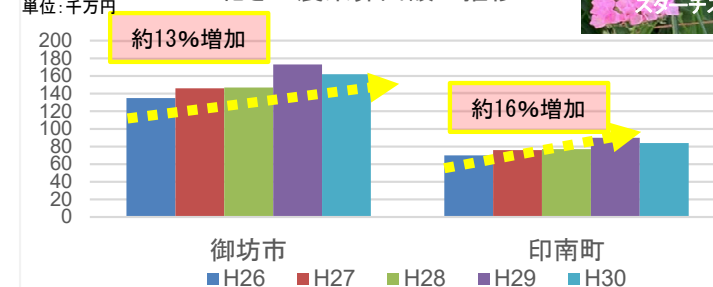


花き等の高収益作物の生産により高い農業所得を実現

- 全国シェア1/2以上を占めるスターチス産地の農業生産が更に拡大。



花きの農業算出額の推移



スターチスを生産する個人経営体の農業所得(H30)

【経営規模】100a(内、施設100a)
【作目】スターチス100a、小玉スイカ30a
【販売額】3,459万円【所得】1,121万円

注)「販売額」は、経営統計上の「農業粗収益」を指す【出典: 和歌山県による経営体への聞き取り】
「近畿の農業所得」は、近畿農政局統計部「平成30年 経営形態別経営統計(個別経営)」

近畿の1経営体あたりの
農業所得(101万円)の約
10倍

【対策のポイント】

- 近年の都市化の進展による流出形態の変化に起因し、農業用排水施設の排水機能の低下により、地域で湛水被害が発生。
- このため、3か年緊急対策において、排水機場及び排水路の改修を実施。
- 事業実施により計画基準降雨における被害想定額及び湛水想定面積が減少。

【取組地域の概要】

○位置 わかやまし
和歌山県和歌山市ほか

和歌山県



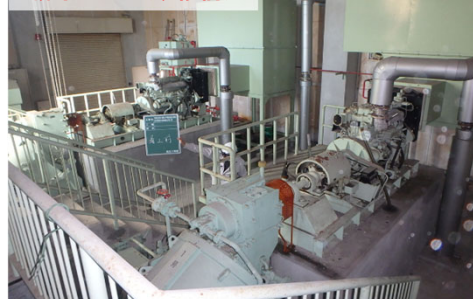
わかやまへいや
和歌山平野地区

○ 主要作物
・水稻、大豆、なす、ねぎ 等

農業用排水施設の排水能力を確保

- 地区内の排水能力を確保するため、3か年緊急対策により「米田排水機場」の改修を実施。本事業で既に整備済みの「米田排水路」と併せて排水能力を確保。
- 排水ポンプ能力:「3.67m³/s」⇒「4.50m³/s」に変更

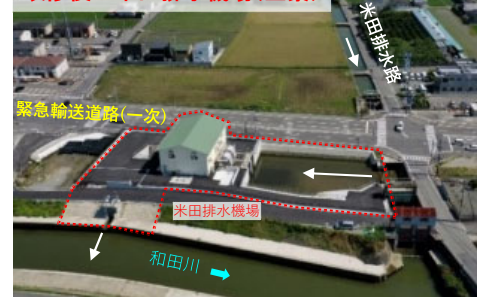
排水ポンプ(改修前)



基盤整備

(H30～R2)

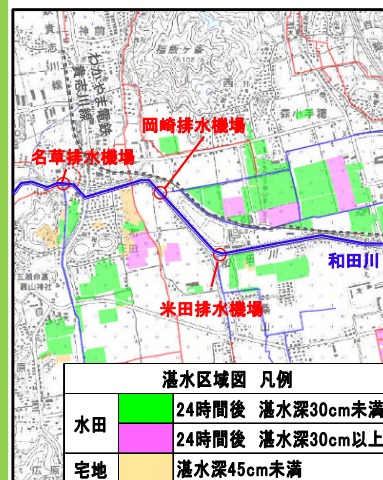
改修後の米田排水機場(全景)



排水ポンプ(改修後)



事業の実施により湛水被害を軽減

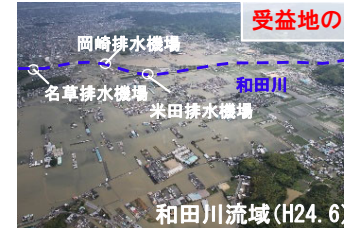


事業実施前の湛水区域図
(1/10確率)



事業実施後の湛水区域図
(1/10確率)

受益地の湛水被害状況



○ 事業により農業用排水施設の機能回復が図られ
農作物・家屋等の湛水被害約560億円※が軽減。

※1/10確率降雨(3日連続雨量:254mm)における試算結果

【工夫のポイント】

- ほ場整備、農業用水の確保により**ぶどうの品質向上、収量増**を実現。
- 大規模農業に対応するため、**スピードスプレー**を導入し、**共同防除**を開始。
- 消費者ニーズに応じて、市場出荷型から**観光農園型へシフト**。
- 来場者への配慮として、衛生環境が整備された結果、生産者スタッフにも優しい環境となり、**女性の参画率がアップ**。

【取組地域の概要】

- 位置 ありだぐんありだがわちよう
和歌山県有田郡有田川町（過疎・半島）

和歌山県



かわぐち
川口地区

- 主要作物
・ぶどう、柿 等

○ 主な支援施策

- ・ 団体営農地開発事業（S49～S54）
- ・ 団体営かんがい排水事業（S59～S61）
- ・ 水利施設等保全高度化事業（R4～R8）

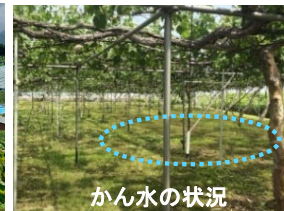
基盤

大区画化及びかんがい施設等、段階的な基盤整備

- 大区画のほ場が造成されたことで、**農業生産性が向上し、高収益作物の生産が拡大**。
- 畑地かんがい施設を整備することで**作物の品質と収量が向上**。



大区画化されたほ場



かん水の状況

基盤整備

（S49年～S61年）

【整備前】

急傾斜で不整形な農地は、農作業の省力化や高収益作物への転換に支障。



整備前の川口地区



手散布による防除

生産現場

生産組合の設立と共同防除の取組

- 生産組合を設立し、共同出荷施設を整備するとともに、**スピードスプレー**による**共同防除**を開始。



SSを活用した共同防除

地域の取組

消費者ニーズに応じて販売形態をシフト

- 多様化する国内外の消費者ニーズに対応するため、**体験型観光農園を展開（スタッフは8割が女性）**。また、水洗トイレ等、来場者をもてなす環境も整備。



快適なトイレ

加工・流通

「有田巨峰村」の魅力を高める6次産業化

- 圧巻のロケーションを活かし、園内にカフェを開設し、**四季折々の特産品を提供**。



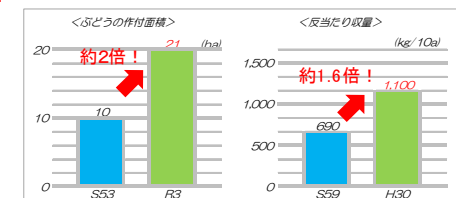
テラス席からの眺望



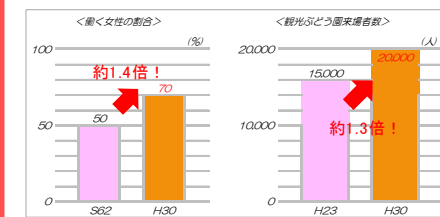
園内のぶどうを用いたデザート

基盤整備と地域の取組（ハード＆ソフト）により収益力がUPし、女性が活躍

- 大区画のほ場を造成し、共同機械の導入と観光農園の取組によりぶどうの**作付面積は2倍**に、畑地かんがい施設の整備により**反当たり収量は1.6倍に増加**。（有田落葉果樹生産組合への聴き取り）



- 来園者や生産者スタッフに配慮した環境が整ったことで**女性の就業者が地区全体の70%超**に、また、**来場者数も整備前の約1.3倍**に増加。



女性の就業者が8割以上の農園も

基盤整備を契機としたうめ振興と再生可能エネルギーの取組【和歌山県田辺市・みなべ町】

たなべし

ちよう

省力化・
スマ農

グリーン

国土強靱化

【工夫のポイント】

- 基盤整備により農業用水を安定的に確保し、うめ収穫量が向上。
- 農業水利施設を活用し、再生可能エネルギーを有効利用した発電施設を整備。再生可能エネルギー活用の取組をPR。
- 発電時にCO₂の排出がなく、温室効果ガス排出削減に寄与。
- 売電収入により土地改良施設の維持管理費の負担を軽減。

基盤

営農の安定・効率化

- ダムや頭首工等を整備することで、農業用水を安定的に確保。
- スプリンクラーを利用した、かん水や防除により作業を省力化。
- 再生可能エネルギーの有効利用と農家の経営安定化等を目的に、ダムを活用した小水力発電施設及び調整池を活用した太陽光発電施設を整備。



太陽光発電施設

基盤整備

(S48年
～H27年)

【整備前】

降雨や沢水等の不安定な水源に頼っており、干ばつによる収量減や品質低下が発生。

急傾斜のほ場への農業用水運搬や手作業による防除に多大な労力が必要。

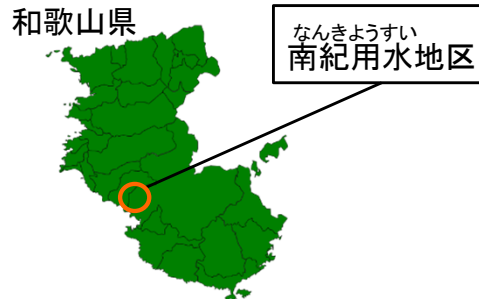


基盤整備前の梅畑

【取組地域の概要】

○位置

たなべし ちよう
和歌山県田辺市・みなべ町



なんきようすい
南紀用水地区

○主要作物

・うめ、かんきつ類

○主な支援施策

- ・国営南紀用水土地改良事業(S48～H7)
- ・県営かんがい排水事業(H1～H14)
- ・地域自主戦略交付金(H23～H24)
- ・農山漁村活性化プロジェクト交付金(H26～H27)

加工・流通

うめ振興の取組

- 田辺市・みなべ町が、JA等を構成員とした「紀州田辺うめ振興協議会」・「みなべ梅対策協議会」を設立。うめ振興体制を構築する等、うめの販売促進やブランド化に取り組む。



「梅の日」制定

地域の取組

再生可能エネルギーによる 発電施設の整備を契機とした取組

- 地元小学生等を対象に見学会を開催するなど、農業水利施設による再生可能エネルギー活用の取組をPR。地域住民の環境意識の向上に寄与。



小水力発電施設の見学会

うめの収穫量の向上

- 基盤整備による農業用水の安定供給により、うめの収穫量が向上。日本一のうめ産地である田辺市・みなべ町のうめ生産に寄与。2市町で全国シェアの56%を占める(R3)。

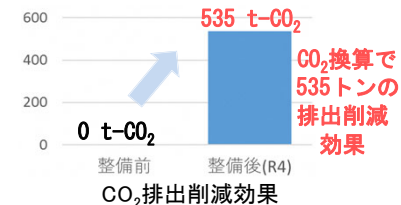


南高梅

再生可能エネルギー発電施設整備による効果

- 再生可能エネルギーによる発電は発電時にCO₂を排出しないため、温室効果ガスの排出削減に寄与。

- 再生可能エネルギーによる発電の売電収入により、土地改良施設の維持管理費の負担を軽減。



土地改良施設の維持管理費に充当する売電収入の割合
(南紀用水土地改良区(R4))

【工夫のポイント】

- 豪雨時のため池の水位を監視するため、遠隔によるリアルタイムの水位監視体制を整備。
- ため池決壊等が懸念される場合に、排水ポンプ設置による強制排水を実施する体制を整備。
- ため池決壊等による災害発生に備え、関係者による緊急連絡体制を整備し、下流住民の迅速な避難行動に寄与。

ため池水位の監視システムの設置

- ため池水位の監視システムの設置により、遠隔による水位監視を実現。



ため池水位の監視システム
(ため池現地側機器)

基盤整備
(R3年)

【整備前】

ため池水位の確認にあたっては、現地へ赴く必要があり、豪雨時の適宜迅速な水位監視が課題。



事業実施前

【取組地域の概要】

- 位置 はしもとし
和歌山県橋本市

和歌山県

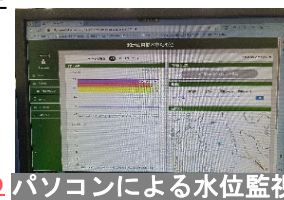


おおいけ(かむろ)
大池(学文路)地区

- 主要作物
・かき
- 主な支援施策
・農村地域防災減災事業(R3)

ため池水位の監視体制と応急対応体制の整備

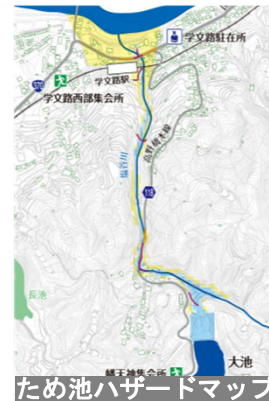
- 豪雨による急激な水位上昇等を市がリアルタイムで水位を監視する体制を整備。
- 排水ポンプによる緊急的な強制排水の実施を可能とする体制を整備。



パソコンによる水位監視

ため池の水位監視に併せて各種ソフト対策を実施

- ため池ハザードマップを住民に周知するとともに、関係機関で災害リスク情報を共有。
- 市・水利組合・地元による緊急時の連絡体制を整備し、下流住民の迅速な避難行動に寄与。



ため池ハザードマップ

ため池下流域の防災・減災に貢献

- 災害リスク情報の共有、地域の緊急連絡体制の整備により、ため池下流域の防災意識が向上。
- 豪雨時等における水位確認のための移動時間(10分/回)が削減され、ため池管理者の負担が軽減されるとともに、安全性を確保。
- ため池決壊等が懸念される水位上昇を確認次第、市がため池へ排水ポンプを設置して強制排水を実施できる体制の整備により、被害を未然防止。
- 令和5年6月2日に発生した台風2号による線状降水帯の影響により連続雨量303mm(最大時間雨量46mm)を記録した災害時において、初動対応の迅速化により災害を未然防止。

ため池決壊時の想定被害額 ※H24算定

農業	道路	河川	人家
2百万円	1千万円	1.55億円	2.54億円

合計 4.2億円